

## 越境が拓く、次世代のものづくり

山梨県内の企業と全国のスタートアップが共創する、「STARTUP YAMANASHI OPEN INNOVATION PROGRAM」。今回は、[ファスフォードテクノロジー株式会社](#)の大森僚氏に、同プログラムへの参加の経緯と挑戦について伺いました。

### 共創で動き出した 新たな挑戦

山梨県内で生まれ育った大森氏は、精密な半導体製造装置「ダイボンダ」のソフトウェア設計と高度な画像処理機能の開発に長年携わってきました。自社の技術で高精度検査機能を実現してきたものの、「もっと高精細な検査ができないか」という声は常に社内外にありました。

その突破口を切り開くべく、大森氏は『STARTUP YAMANASHI OPEN INNOVATION PROGRAM 2024』に挑戦。「革新的な技術を持つスタートアップと手を組み、外部の知見や技術を取り入れて課題解決を図れる」と期待を抱いていたと言います。十数社の応募から「1枚の画像で学習できるAI検査技術」を持つパートナーと出会い、「画像1枚でここまで正確にできるものなのか」とその精度に驚かされた」と、共創の出発点に確かな手応えを感じた当時は振り返ります。



大森僚氏

### 山梨発のオープンイノベーションへの期待

大森氏は、本プログラムの意義を「地域発の挑戦が全国とつながる点」にあると強調します。山梨県が間に立ち、企業とスタートアップ双方の思いや課題を丁寧に整理しながら伴走することで、議論が一過性で終わらず、具体的なアクションへと発展しました。県内企業にとっては新たな視点を得る機会となり、スタートアップにとっては実証や事業化の可能性が広がる——山梨だからこそ実現した、実践的なオープンイノベーションのカタチがここにあります。

詳しい記事は  
こちらから→

HIGH  
QUALITY  
YAMANASHI



大森 僚 (おおもり  
りょう) 氏  
ファスフォードテクノ  
ロジ株式会社

1987年生まれ、山梨県甲府市出身。県内の高校を卒業後に、半導体製造装置「ダイボンダ」を手がけるファスフォードテクノロジーに入社。20年間にわたりソフトウェア設計部で装置制御ソフトや画像処理機能の開発に従事。世界的シェアを持つ同社で、精密実装技術と検査アルゴリズムの高度化を担い、技術革新を牽引しているエンジニア。

山梨県の様々な魅力をお届けする県公式のブランド情報発信サイト『ハイクオリティやまなし』はこちら  
<https://hq.pref.yamanashi.jp/>



YAMANASHI

【主担当課】山梨県 産業政策部 スタートアップ・経営支援課

(TEL 055-223-1544)

【発行】山梨県地域ブランド推進 CFT (クロス・ファンクショナル・チーム ※)  
(事務局) 山梨県 高度政策推進局 地域ブランドグループ TEL 055-223-1584

※ 組織の枠を超えた部局横断チームを編成し、相乗効果や新たな価値を生み出すブランドプロモーションに取り組んでいます